

## 中国空軍パイロット養成課程の改善

漢和防務評論 20150105 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。  
中国空軍パイロットの養成課程について、漢和防務評論の記事を紹介します。  
中国空軍は、朝鮮戦争以前の空軍創設期、日本陸軍が残置した機体と中国抑留の日本陸軍パイロットを教官に招いてパイロットを養成した時期がありました。  
中国にとって朝鮮戦争は、毛沢東がスターリンに脅迫されいやいやながら参戦した戦争ということになっています。当時中国の周恩来はどうせ参戦するなら空軍創設のチャンス到来と捉え、ソ連に対し積極的に空軍創設の支援を求めたということです。  
過去の軍パイロット養成課程は、ソ連方式に倣ったものでしたが、近年西側の方式を次第に採り入れるようになりました。戦闘機の科学水準の高度化に伴って必要に迫られたからですが、改善のスピードは遅いようです。

**KDR バンコク特電：**

中国空軍は、2014年9月、鼎新訓練センターにおいて、17個戦闘機連隊の第3世代戦闘機（SU-27、J-11、J-10）170機による空戦集中訓練を実施し、5名の最優秀戦闘機パイロットを選出した。中国空軍がこのような訓練方式を制度化したのかどうか注目する必要がある。

中国空軍は、2004年から、パイロット養成方式を改善しつつある。同年、中国空軍は、元の空軍長春飛行学院、第2航空学院及び第7飛行学院の3つの院校を合併し空軍航空大学を創設した。同大学内には、基礎訓練基地（元の長春飛行学院）と飛行訓練基地（元の第7飛行学院）を設けた。現在、3年のコースと4年のコースがあり、大卒生からの入校者については1年コースになる。

中国空軍戦闘機パイロットの養成施設は次の通りである：

**飛行学院：**中国空軍には現在7個の飛行学院がある。戦闘機飛行学院が5個、爆撃機／輸送機／航法飛行学院が2個である。これら飛行学院は、航空大学において基礎教育及び初級飛行訓練を終了したパイロットのたまごを受領したのち、1年間の高度な飛行訓練を行う。ここを卒業すると、軍事学学士の学位を授与され、高等中学卒のパイロットたちは、副連隊長職につき、中尉となる。

**航空兵訓練基地：**戦闘機及び戦闘爆撃機要員（新人パイロット）に対する作戦機への機種転換訓練、及び実弾射撃訓練を行う。これは各軍区空軍が管理している。主要装備機はJ-6（中国製MIG-19）、J-7（中国製MIG-21）及び同型の練習機、並びに

Q-5 (MIG-19 を改修した国産戦闘爆撃機) である。訓練期間は 1 年。  
高等中学出身学生の大部分は"2.5 年+1.5 年"の養成課程を経る。すなわち 2 年半の基礎教育と 1 年半の飛行訓練である。大学 2 年終了者及び大学卒業者は、半年の基礎教育と 1 年半の飛行訓練を行う。

2004 年からは、高等中学卒業生に対する基礎教育を強化するため"4 年+1 年"の養成課程の募集を開始した。すなわち基礎教育が 4 年 (半年の初級飛行訓練を含む) で、卒業生には工学士の学位を授与し、その後飛行学院で 1 年間飛行訓練を行う。

戦闘機パイロットの養成 :

1 人の飛行学生を作戦任務を担う戦闘機パイロットとして養成するためには、"3 級 5 段階" の訓練を経なければならない。3 級とは、飛行院校、航空兵訓練基地、及び航空兵部隊である。5 段階とは、飛行基礎訓練、初級練習機訓練、高等練習機訓練、機種転換訓練及び練度向上訓練である。飛行院校の訓練期間は 4 乃至 5 年、航空兵基地での訓練期間は 1 年である。訓練綱領に示された戦術訓練の第一段階終了までの期間は 2 年である。このように 1 人の青年学生が空中戦闘員に成長するためには、一般的に 7 乃至 8 年かかる。飛行学生が一人前のパイロットになる前に淘汰される比率は通常 50 % 以上であり、近年はこの比率が高まりつつある。

現在、中国飛行学生の飛行訓練課程は、"初級飛行訓練と高等飛行訓練" の 2 段階がある。

初級飛行訓練 : 航空大学の飛行訓練基地と一部飛行学院の初級練習機課程で行われる。訓練期間は半年である。学生は「初教-6」型機を使用して訓練する。実機での飛行時間は 80 時間である。模擬飛行訓練 (シミュレーター) は 10 時間である。ここでの淘汰率は 50 % 以下である。

高等飛行訓練 : 戦闘機と爆撃機 / 輸送機の 2 コースがあり、訓練期間は 1 年である。戦闘機学生は J-8 型練習機で訓練する。訓練飛行時間は 150 時間である。シミュレーター訓練は 12 時間である。爆撃機 / 輸送機学生は爆運教-7 型機 (HYJ-7)、爆教-5 (HJ-5)、及び運-5 (Y-5) を使用する。HYJ-7 は実機飛行 140 時間、シミュレーター 10 時間である。Y-5 の実機飛行時間は 105 時間、シミュレーター 10 時間である。以上から、中国空軍には高性能練習機が無く、戦闘機パイロット学生は初級練習機から直接現有装備機の練習機型に進むことが分かる。これは航空事故が多発する主な原因となる。1 個飛行学院は 3 乃至 4 個訓練団で編制され、3 乃至 4 個飛行場を占有し、総機数は 100 機以上である。しかし米空軍訓練基地に比べると、訓練飛行時間は 2 分の 1 以下である。

SU-27、J-8 の訓練費用 : 中国空軍に第 3 世代戦闘機が装備されるに従って訓練費

用が高騰している。1名のJ-8パイロットを養成するためには280万人民元が必要だ。H-6爆撃機パイロットは、465万人民元がかかる。現在、SU-27のパイロットが1時間訓練飛行を行うと2000ドルかかるという。

以上